

発展練習問題 8-3

<解答> ※○数字は解説の都合上、付け加えたものである

原 価 計 算 表

自 20X1年6月1日 至 20X1年6月30日 (単位：円)

	製造指図書			合 計
	No. 101	No. 102	No. 103	
前月繰越	121,300	0	0	121,300
直接材料費	② (5,100)	98,600	175,500	② (279,200)
直接労務費	32,200	⑫ (83,250)	142,150	⑬ (257,600)
製造間接費	① (18,900)	① (66,150)	① (103,950)	① (189,000)
合 計	③ (177,500)	⑩ (248,000)	⑨ (421,600)	⑭ (847,100)
製造着手日	20X1.5.19	20X1.6.5	20X1.6.8	
完 成 日	20X1.6.4	—	20X1.6.28	
引 渡 日	20X1.6.13	—	—	

仕 掛 品

④ [前月繰越] (121,300)	⑦ [製 品] (599,100)
直接材料費 279,200	⑪ [次月繰越] (248,000)
⑬ [直接労務費] (257,600)	
製造間接費 189,000	
⑭ (847,100)	⑭ (847,100)

製 品

⑤ [前月繰越] (254,000)	⑧ [売上原価] (431,500)
⑥ [仕 掛 品] (599,100)	⑨ [次月繰越] (421,600)
853,100	853,100

【解説】

仕掛品勘定と製品勘定の関係、個別原価計算の基本的な勘定記入方法を理解しているかを試す問題であり、近年の日商簿記検定の問題で頻繁に問われる推定力も試されている。基本練習問題 8-2 と問題の基本的なコンセプトは同じだが、大量の推定を求められている点で難易度が高くなっている。問題文で与えられた資料をうまく活用して、推定できるところから順次埋めていくことがポイントになる。なお、解説の○数字は、推定する順番を示す。

①製造間接費の配賦

仕掛品勘定より製造間接費は 189,000 円なので、資料 1 より以下のように配賦する。

- ・製造指図書 No. 101 : $189,000 \div (20+70+110) \times 20 = 18,900$
- ・製造指図書 No. 102 : $189,000 \div (20+70+110) \times 70 = 66,150$
- ・製造指図書 No. 103 : $189,000 \div (20+70+110) \times 110 = 103,950$

②No. 101 の直接材料費

仕掛品勘定より材料費は 279,200 円だから逆算すれば No. 101 の材料費は 5,100 円である。

③No. 101 の製造原価の合計額

①と②より 177,500 円である。

④仕掛品勘定の前月繰越

原価計算表の前月繰越欄より 121,300 円である。

⑤製品勘定の前月繰越

資料 2 より No. 100 が前月から繰り越された製品であり、その製造原価の合計額は 254,000 円であると明記されている。

⑥製品勘定の仕掛品（借方）

製品勘定の借方及び貸方の合計額が 853,100 円とわかっているのので、⑤を用いて逆算すれば 599,100 円である。

⑦仕掛品勘定の製品（貸方）

製品勘定の仕掛品（借方）と仕掛品勘定の製品（貸方）は、製品完成時に仕掛品勘定を製品勘定に振り替える仕訳からも明らかなように、表裏一体の関係にあるので、⑥より製品勘定の仕掛品（借方）が 599,100 円とわかれば、⑦も同額となる。

⑧製品勘定の売上原価（貸方）

資料 2 と原価計算表の情報より、6月に売上原価となるのは No. 100 及び No. 101 だから、両者の製造原価を合算した次の金額が売上原価となる。

$$254,000 \text{ 円 (No. 100)} + 177,500 \text{ 円 (N. 101)} = 431,500 \text{ 円}$$

⑨製品勘定の次月繰越（貸方）

当期中に完成して当月末時点で未販売なのは No. 103 だけだから、No. 103 の製造原価の合計額 421,600 円が入る。なお、合計額からの逆算でも計算可能である。

⑩No. 102 の製造原価合計額

資料 3 より、No. 102 の製造原価合計を 1.7 倍すると No. 103 の製造原価合計にあるとわかるので、逆算すれば No. 102 の製造原価合計額は $421,600 \div 1.7 = 248,000$ である。

⑪仕掛品勘定の次月繰越（貸方）

当月中に製造に着手し、当月末で未完成なのは No. 102 であるから、⑩で求めた 248,000 円が入る。

⑫No. 102 の直接労務費

⑩より No. 102 の製造原価合計額がわかったので逆算すれば No. 102 の直接労務費は 83,250 円である。

⑬直接労務費の合計額

⑫から直接労務費の合計額は 257,600 円なので、仕掛品勘定の直接労務費にも 257,600 円が入る。

⑭仕掛品勘定の借方及び貸方合計額

⑬までですべての空欄が埋まったので 847,100 円である。